

“全数把握見直し” 医療現場の受け止めは？ 重症リスク患者の見落としへの懸念も

8/29(月) 21:11 北陸放送

政府が打ち出した感染者の「全数把握見直し」。特定の医療機関に絞った定点調査の検討も進む中、これまで全数把握に振り回されてきた石川県内の医療従事者はどのように受け止めているのでしょうか。



なかがわ腎泌尿器科クリニック 中澤佑介院長

「どうしても午前中の診療中に発熱外来しているの
で、まとめてじゃないと送れないので」

石川・野々市市のなかがわ腎泌尿器科クリニックの中澤佑介院長は、保健所あてにFAXを送っていました。通常の診察とは別に発熱外来を開いているこのクリニ

ックでは毎日、陽性者の情報を発生届に記入し、保健所宛てにまとめて送っています。国が運用している感染者の情報管理システム「HER-SYS」への入力作業までは手が回らないのが現状、それでも…。

なかがわ腎泌尿器科クリニック 中澤佑介院長

「夜の9時ごろまで作業したこともあるけど、どうしても出し忘れだけは問題になります。(患者は) 沢山来るので難しいですね…手間は取られています」

8月中旬には1日あたり120人以上もの陽性が確認された日もあったといいます。

以前、勤務していた病院でHER-SYSへの入力作業に携わっていた看護師の原口志歩さんは…

看護師 原口志歩さん

「1人分を入力するのに大体5~10分かかる作業。現場の負担としては減るかなと思う」
一方、クリニックではコロナ患者の自宅への往診も行っていて、全数把握がなくなった場合、重症患者を見落とししてしまう懸念もあると言います。

看護師 原口志歩さん

「全数把握をすることで、重症リスクのある患者への訪問看護につながっている。よい医療が提供できていると思うので…」

自ら新型コロナ患者の家に訪れ、治療にあたっている中澤院長。感染収束が見通せない現状を踏まえ、「“全数把握の見直し”には慎重になるべきだ」と言います。

なかがわ腎泌尿器科クリニック 中澤佑介院長

「患者がどういう状況かということ把握できたうえでのホテル療養・入院調整が行われている。そこを定点調査にすると、報告漏れなどのしわ寄せはあるかと。新型コロナが2類感染症である限りは全数把握は必要だと考えている」

現場の負担軽減とより安心な医療体制の挟間で、医師たちの気持ちも揺れ動いています。